

会 議 録

会議の名称及び会議の回	令和 7 年度 第 1 回飯田市上下水道事業運営審議会
開催日時	令和 8 年 1 月 19 日（月） 午後 1 時 30 分から午後 3 時 30 分まで
開催場所	飯田市役所 3 階 C311～312 会議室
出席委員氏名	原優、角田憲正、菅沼文秀、木下容子、羽場義人、西村よし子、上沼和則、大澤幸子、鋤柄富男、小平節美
欠席委員氏名	玉置節子
傍聴者	5 人
出席事務局職員氏名	井田上下水道局長、加藤経営管理課長、柳澤水道課長、関島下水道課長、竹村下水浄化センター所長、筒井経営管理課長補佐兼上水道経理係長、熊谷水道課長補佐兼浄水施設係長、塩澤水道課長補佐兼上水道整備係長、大島下水道経理係長、遠山下水道整備係長、下平下水道施設管理係長、吉地浄化施設担当専門技査、加藤庶務係長
会議の概要	以下のとおり

「敬称略とする」

1 開 会

（加藤経営管理課庶務係長）

ただいまから、令和 7 年度第 1 回飯田市上下水道事業運営審議会を開催する。議長が選任されるまでの間、私が進行する。

2 委嘱状交付

（加藤経営管理課庶務係長）

選出団体の人事異動、役員改選により、委員の交代があったのでご報告する。飯田信用金庫本店営業部 角田憲正様。飯田市浄化槽設置管理組合 上沼和則様。委嘱状は机上交付とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

3 会議の成立

（加藤経営管理課庶務係長）

本日の欠席委員だが、玉置委員、1 人から欠席の届があった。飯田市上下水道事業運営審議会条例第 6 条の規定により、会議の成立には委員 11 人の過半数である 6 人の出席が必要である。本日の出席委員は 10 人であり、会は成立している。

4 市長挨拶

（佐藤市長）

本日は年始めのお忙しい中、令和 7 年度第 1 回飯田市上下水道事業運営審議会にご出席いただき誠にありがとうございます。

また、皆様にはそれぞれのお立場で、飯田市の上下水道事業につきまして、ご指導賜っていることを、この場をお借りして感謝申し上げます。

今年度第 1 回の運営審議会ということで、前回のこの審議会は昨年 3 月末だったので 10 か月ぶりの開催ということになる。ちょうどその時期は、昨年 1 月に発生した埼玉県八潮市の道路陥没事故の直後だったということもあり、前回の会合では、上下水道施設の耐震化の状況に関する緊急点検の結果、それから、耐震化計画の策定などについてご報告し、またご意見をいただいた。

本日は、令和 6 年度の決算が認定されたということもあり、上下水道の概況について説明をさせていただき、また、7 年度の事業についても若干触れて説明をさせていただきたい。

上下水道事業、特に水道事業については、令和6年1月から水道料金の改定を行って運営してきているところで、この水道事業経営戦略というのは、その改定に伴って策定し、実際にそれを実行しているところであるが、改定版を策定したのが令和5年度であるので、5、6、7年とその計画に基づいてやってきたその改定を、また8年度には行わなければいけないと、そういう状況にある。

そういった水道事業経営戦略の改定に向けて、これからご議論いただくということにもなるので、今日はそういうことも念頭に置いていただきながら、6年度決算に基づく事業概況について、あるいは計画の進捗状況についてお聞きいただければと思う。

色々なお立場で、日頃感じておられることであろうかと思うので、ぜひ忌憚なくご意見をいただき、今後の事業改定について議論を進めていければと思うので、よろしくお願いしたい。

5 会長挨拶

(鋤柄会長)

この審議会の会長を務める松尾地区まちづくり委員会 鋤柄である。本日はよろしくお願いしたい。また、本日はお忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。

今年のお正月は、昨年がとても暖かい冬だったので、正月の三が日も穏やかな本当に良い天気であった。最近になって朝晩寒くなり、また明後日頃からすごい寒波が来ると言われている。そんな中よく起こるのが、水道の破裂等がある。明日は大寒であるが、我々もそういう面でよく注意しなければいけないと感じている。

本日は令和7年度第1回の審議会である。昨年は先程市長が申したとおり、3月の審議会で7年度の予定を色々お聞きした。それ以降、10か月の間、飯田市では大きなトラブルはなかったと思うが、全国的に見れば、水道管の破裂等で大事故や、災害によって止まったというようなことも多々あった。

それを考えると、本当に今我々の審議会で行っていることは非常に大事なことになる、つくづく思うところである。上下水道の耐震化、老朽化に伴う更新については、本当に大事なことであり、と感じるところである。

本日は、水道事業、下水道事業の状況、経営戦略の見直しについての説明を受ける。今後の審議会の中に大きく関わってくるので、よく聞いていただき、忌憚ない意見をいただけるようによろしくお願いします。

(加藤経営管理課庶務係長)

佐藤市長は次の公務のため、ここで退席させていただきます。

(加藤経営管理課庶務係長)

審議会条例第6条第1項の規定により、会長が議長となることになっているので、これからの進行は、鋤柄会長にお願いします。

6 公表用会議録において委員氏名を公開することの同意について

(鋤柄会長)

事務局から説明されたい。

(加藤経営管理課長)

本会議の発言の要旨の公表用会議録への記載については、記載する内容についての発言をした委員の確認を得て行うものとする。

ただし、発言した委員の氏名については、会議に出席した委員全員の同意が得られた場合に限り記載するものとしているので、本日の会議録における発言委員の氏名の公表について同意いただけるかどうか。

(鋤柄会長)

ただ今説明があった会議録への記載についていかがか。

(委員各位)

異議なし。

(鋤柄会長)

同意いただいた。会議の内容の公開にあたっては、発言された委員の氏名も併せて公開することとする。

7 報告・協議事項

(1) 上下水道事業について（「飯田市上下水道の概況」）

(鋤柄会長)

上下水道事業について、アからウまで事務局から説明されたい。

(柳澤水道課長) 上下水道の概況、資料No. 1

ア 水道事業について説明。

(関島下水道課長) 上下水道の概況、資料No. 2

イ 下水道事業（管路施設）について説明。

(竹村下水浄化センター所長) 上下水道の概況、資料No. 3

ウ 下水道事業（処理施設）について説明。

(鋤柄会長)

ただいまの説明について、ご質問、ご意見等があるか。

(原委員)

かなり色々な施設が老朽化しているということで、今後、メンテナンスとか、取替えであるとか色々な経費がかかってくると思う。一般の方から見ると、今後の上下水道料金の値上げに対して心配する声も多い。補助金等のあるものは良いが、そうでないものもあると思う。一つ一つの事業のスパンが長いので、なかなか会計的に捉えるのは難しいが、今後の上下水道料金の値上げの見通しを伺いたい。

(加藤経営管理課長)

料金の改定については、この後の経営戦略の見直しの項目の中で説明する予定だが、市長も申したいとおおり、建設改良計画も含めた経営戦略全体の見直しを定期的に行うこととなっており、そのタイミングが来年度に迫っている。その時に合わせて料金についても検討していくと前回の改定時に決めいただいているので、そのような流れで、今後、ご審議をいただくことになっている。よろしくお願したい。

(原委員)

飯田市が値上げをすると、他の町村にも影響するので、どうなのかと思った。ありがとうございました。

(鋤柄会長)

他にいかがか。

(菅沼委員)

たくさんご説明いただいたので、なかなか整理はつかないが、第一に水道では妙琴浄水場は要の施設なので、しっかりこれは取り組んでいただきたい。

その中で、資料No. 1 で老朽管の更新 2 億 5,700 万とあるが、これは近年の物価上昇、色々な材料費、あるいは人件費等々の高騰があるが、これで賄っていいのか、大丈夫なのかということを伺いたい。

穴・陥没とかは、水道、下水道もあるが、そういうことで当地域では大きいものはメンテするが、小さいのがないのかも含めて、お聞かせ願いたい。

それから、下水道のエリアマップだが、処理場がたくさんあって管理が大変だなと思う。その中で、下殿岡とどこかが一緒になるということと、目名振がどうというところがよく聞き取れなかったもので、統合等どのようになっているのかももう一度伺いたい。

(柳澤水道課長)

老朽管更新の関係だが、単年度、建設改良計画では2億8,000万という事業費の中で、24年間の整備を進めていくということで計画を立てている(令和17年から24年は10億5,000万円)が、やはり物価高騰ということで、材料費も人工も上がっている。そのような中、最初の計画では、全体の管路を更新対象と考えていたが、事業費が上がってくるということで、管路の配水流量10tを境にして、市民生活に影響のない管路は事後保全という形で、対象とする管路を短くして今後更新をしていく。こういった考えで今進めている。

それから、大きな管はあるのかということだが、大きな管路については妙琴からの伊賀良低区に行っている管路、これも700mmとか600mmとかいう管路があるが、今リニアの運搬路にもなっているの、なかなか工事がし難い状況で、現在の砂払浄水場から下黒田配水池、これは400mmの送水管だが、そういったものを先に進めている状況である。

(関島下水道課長)

道路陥没の件だが、今年度は、大口径管路の特別重点調査ということで、2m以上の口径の雨水管は、潜行目視調査を実施している。ボックスカルバートの目地の部分から侵入水のようなものがあつたため、2次調査ということで、空洞探査車で空洞調査を実施している。まだ正式な成果は出てきていないが、ダイジェストでは特別大きな空洞はないという報告を受けている。

また、道路法が令和8年4月1日付で改正になり、道路占用の更新時には、きちんと占有者が空洞のないことを確認するようにと法が改正されているということで、次年度から、こちらの空洞調査は空洞探査車を使って年次計画で実施をしていくことで対応していきたいと考えている。

処理区の再編・統合について、農業集落排水の下殿岡地区を、特定環境保全公共下水道の竜丘処理区へ統合するというので、今、取組を行っている。実際、工事の方は、6年度、7年度の2か年で実施する。一部繰越になるが、7年度事業で、その接続管工事は完了していく予定である。

それから、堤田と目名振については、農集の下虎岩地区へ接続することで、地元と調整を行い、統合に向けて今後進めていくことで考えている。具体的には、来年度に補助事務の手続き、それから財産処分等の法手続き等を行い、9年度からの下水道事業の経営戦略に位置付け、事業を進めていく予定である。

(菅沼委員)

水道の方だが、老朽管は10t通っているところは古くなったら修繕するが、それ以下のところは噴いたら直すという意味合いか。

(柳澤水道課長)

そうである。噴いたら直すということで考えている。

(菅沼委員)

わかった。ありがとうございました。

(鋤柄会長)

他に質問等あるか。よろしいか。

(委員各位)

意見なし

(鋤柄会長)

それではこの件についてはそのようにお願いしたい。

(2) 条例改正について

(鋤柄会長)

条例改正について、事務局から説明されたい。

(加藤経営管理課長) 資料No.4

条例改正について説明。

(鋤柄会長)

ただいまの説明について、ご質問、ご意見等があるか。

(委員各位)

意見なし

(鋤柄会長)

それではそのようにご承知おきいただきたい。

(3) 飯田市水道事業経営戦略の見直しについて

(鋤柄会長)

飯田市水道事業経営戦略の見直しについて、事務局から説明されたい。

(加藤経営管理課長) 資料No.5

飯田市水道事業経営戦略の見直しについて説明。

(鋤柄会長)

なかなか厳しい数字の説明があった。その中で、説明について、ご質問、ご意見等があるか。

(木下副会長)

大変厳しい状況でやっていただいている、ありがたいと思ったり、大変だと思ったりしている。

本当に基本的なところで、検証期間の変更の部分で、今後については、料金の収入の方はある程度長期間に見通せるだろうと思うが、昨今の物価の上昇のことや、世界情勢の中から考えると、いつ何時もっと上がってくるということもあり得る。今までの3年の期間で検証するのをやめて、そこを1年延ばして4年間にすることのメリットというか是非をもう一度伺いたい。もしかしたら、4年間検証しないことで、世界情勢で物価の上昇、あるいは本当に水道管を直すにしても材料を購入するまでに1年延ばすことによって、どういうことになるのかということが、素人判断では難しいので、そのところをもう少し教えていただきたい。

(鋤柄会長)

事務局、お願いしたい。

(加藤経営管理課長)

今の様な物価の上昇が激しい中では、1年でどのような影響を与えるかというのは、おっしゃるとおりだと思う。

その一方で、次の改定を作る時には、今の戦略の事後検証をしっかりやっていきたいということがある。5、6、7という3年間で、きっちり3年ごとに改定をしようすると、その前の年は、どうしても議会对応の年ということになる。条例の整備をしないといけないということで、そのためには、その年度の早い段階には少なくとも諮問答申がされていてという日程にならざるを得ない。

となると、実質6年度、2年目にはもう改定作業をしていくことになり、その時に使える決算が1年分の決算しかないのも、やはり1年の決算では傾向まではなかなかわからないところがあり、それを以って次の見通しを立てるというのも、なかなか厳しいところがある。最低でもやはり4年くらいの中で、次の期間の頭からは新料金となれば最初からその金額を入れていけるように運営をしていかないと厳しいというところもある。

振り返ってみると、令和5年の経営戦略の時も、5、6、7というのは一つの検証期間であったが、実際に改定されたのが6年の1月ということで、5年度にその新料金が反映された部分はほとんどなかった。そこが大きく今の戦略のイメージからずれていつてしまっているのも、なるべく年度の頭から新料金が参入できるようなスパンで、今申し上げたような十分な準備となると、やはりどうしても4年は必要だと、私どもの方で判断させていただいた。

(鋤柄会長)

令和5年の諮問に対する検討会の中で、この中にもおられた方もいらっしゃるが、当時の審議会

では令和5年に策定した水道事業の経営戦略では、妙琴水道事業含めその建設改良事業をしっかりとやっていこうという中で、その費用は将来へ先送りすべきではないという意見だったと思う。

そういうことで18%の料金改定を答申した経過があるが、その時、付帯意見として、3年ごとに料金を改定すると聞いているが、経営戦略の見直しの機会に水道料金の検証もきちっとしてもらいたいということも入れた経過がある。それを受けての今日の説明だったと思う。

今日なかなかたくさん説明があったが整理すると、3年ごとの検証だと、検証時間がかかりすぎるので中身がないから4年にして1年間は検証期間ということで、4年スパンにするということが1点と、それから今の社会情勢、この大変な物価高騰の中で、本当に今回全体的に大きな見直しが必要になったということの2点ではないかと思うが、なかなか重要な検討になろうかと思うので、今後の審議会で議論していきたい。先程事務局から、任期が5月23日だがそれまでに出不せないようなら延長もあるという意見もいただいたが、その辺は覚悟をして進まなければいけないという気がしている。

他にご質問等あるか。

(菅沼委員)

これでいくと前の時よりも、収入が減って費用が増えるというイメージしか見えなくて、前回の時よりももっと料金を上げるというイメージしかわいてこない。非常にこれだけの説明では苦しいし、参加するのも苦しいと思う。いずれにしろ、今回は概略の説明だから細かいところまでないと思うが、市の方でもそれなりの対応策を検討して審議会に出していただかないと、料金をこれだけ足りないのだからこれだけ上げるという諮問をするのは、この資料だけだと厳しいというイメージしかない。詳細はまた説明していただけたらと思うが、これを見た限りでは非常にショックで、責任はすごく重し、市の方も諮問をして回答を得るだけでなく、それではどうするのかという、その辺を含めて検討していただきたい。

(鋤柄会長)

他にはよろしいか。

(原委員)

この資料から見ると、もう完全に赤字になっていくのは解るのだが、企業会計の観念で見ると、設備投資というのはその年には大きなお金が動く。当然これを減価償却していくわけだから、今度は回収の年度になる。今ちょうどスタートしてから四、五十年経って、ちょうど傷みが激しくて、ここに入替えの年になってくる。そうすると、この辺で何年かは、例えば設備投資の年ということであると、それに関しては赤字ということになっていくのだが、その後、回収期間に入ってくると、人口減とか考えても、そういった年度ではマイナス分を補填できるような要素もあるのではないかと、これをお聞きしていて感じたわけだが、毎年毎年この大きな設備投資をしていけば、当然これは破綻してしまうが、そうではない要素もあるような気がするが、その辺りいかがか。

(鋤柄会長)

ただいまの質問に関して、何かあるか。

(加藤経営管理課長)

建設改良費の話だと思うが、資料の3ページにある建設改良費のグラフを見ていただくと、どうしても平坦にできないということがある。それぞれの施設、例えば妙琴浄水場は使いながら改修をしていかなければならない、止めることができないということもあり、そのやり方も最適な方法を考えたときに、どうしても簡単に遅らせたりできないなど色々な制限の中でやっていったときに、その中でも老朽化対策を進めなければいけないので、バランスを取りながら入れていくと、ある一定のところまでいくと、そこから先の調整が難しいというのが現実である。

ただ、費用負担については、前の戦略の時にはあったが、現役世代、将来世代の負担というところもあり、例えば起債の借入れについても、概ね50%くらいを目途にして現役負担と今年度の部分というように一つの目安を持ちながら事業を進めていき、その中でもなるべく平準化を図っていくように考えている。

それから、先程、菅沼委員から言われた対応策ということについても、現状でいくとこのような状況になるということなので、これをご確認いただいた上で、どうしていくのかといったところは、またこちらの方で用意し、お示ししてまいりたいので、よろしくお願ひしたい。

(原委員)

ありがとうございました。

(鋤柄会長)

今、原委員がおっしゃったように、金利だけでも相当上がってきているので、確かにここ数年でだいぶ変化があると思う。この数字は相当厳しい数字だということははっきりしているので、いずれにしても我々としても、今後この検討で諮問が来るのだろうということだとすると、もう少し突っ込んだ勉強会が必要であれば、その辺も検討した方が良いと思うが、皆さんいかがか。

その辺も含めて、これについては、この辺で一旦終わりでよろしいか。

(委員各位)

意見なし

(鋤柄会長)

それでは、そういうことで戦略については以上とする。

8 その他

(鋤柄会長)

それでは市側からお願いしたい。

(井田局長)

今日は大変重い課題でご相談させていただいた。今後、私達も一生懸命説明させていただきたいので、ご協議の方よろしくをお願いしたい。

私からは今年度の水道事業の取組を一つ紹介させていただく。お手元にお配りした「今知りたい水道・水のミライを考える」というカラー冊子がある。これは、国土交通省が令和6年度に実施した、若い世代が水道事業の理解を深めるための取組として取りまとめた報告書になる。この取組は、国土交通省の水道事業の啓発に向けた調査、検討及びセミナー開催運營業務の一環として、若い世代が水道事業の今を知り、将来を考えて、あるべき将来の水道を議論し、同世代に向けたメッセージを作成する業務で、お手元の資料は他市の事例だが、今年度は飯田市がこのフィールドとして手を挙げた。今年の夏頃には、この資料が飯田市水道事業においてこのような形で、全国に発信していくことになる。

具体的には、飯田短期大学と飯田コアカレッジの学生を対象に、本年度10月から12月にかけて各4回のセミナーを開催した。第1回目は講義。第2回目は浄水場の施設見学を行い、水道事業の現状と仕組み、経営や課題について学び、第3回と第4回は学生同士のグループワークを行い、同世代へのメッセージと将来に向けてのメッセージを作成した。セミナーでは、水道水が飲めるのは世界で11か国だけで、地球上に生活用水で利用できるのはごくわずか、世界では水紛争が起きているということなどから始まり、最終的には水道事業は原則として、利用者が支払う料金で賄っているなど、経営から施設の老朽化などの課題までを学び、施設見学会では、水道水ができる工程と水質管理について学んだ。水道水と市販のペットボトルの水の利き水を行い、両学校とも、砂払浄水場でできた水道水が一番美味しいと言ってもらった。ペットボトルは1本150円ぐらいするが、水道水は1Lあたり0.2円で安価だし、飯田市の水道水が安全で美味しいと実感してもらい、大変嬉しく思った。

第3回は、私、水道局長から飯田市の水道事業、水道についての講義、その後、5～6人の単位でグループワーク、将来あるべき水道の姿を実現するために何をすべきか、同世代にどのように伝えていくか、それぞれ意見を出し合った。

第4回は、学生同士でメッセージの取りまとめを行った。水道局としては、若い世代がどのような考えを持ち、水道についてどう考えるか、それらの発言に、我々が気付かなかった気付きが発見できるなど、今後の経営のあり方について参考にしたいと考えている。

水道事業は人口減少、施設の老朽化、人員不足、技術の継承など様々な課題があり、これまでの持続的な経営がますます困難になっていくという危機感がある一方、そのことを私達水道事業が発信してもなかなか伝わりづらい。水道事業を知らない若い世代が水道を知り、水道の将来を考えてもらい、蛇口をひねれば水が出るのが当たり前というところから当たり前ではない蛇口の奥を覗い

てみようという発想で、若い世代が正しく理解してSNSで発信していくことが重要と考え、このような取組を今年度行ったので、報告させていただいた。

また、資料はお時間のある時にご覧いただければと思う。

このような状況だが、飯田市の水道事業は他の自治体と比較しても広範囲で支える人口が少ないということから、将来の人口減少や施設の効率の低下が想定される中で、施設をしっかりと維持していくためには、どうしても継続的な料金の見直しを考えていかなければならないという状況である。

審議員の皆さんにおかれましては、本日ご説明させていただいた水道経営戦略の改定について、今後ともお集まりいただき、ご協議を継続させていただく予定である。次回の審議会では、水道事業経営戦略の令和8年度改定版の方向性や、料金改定の素案をお示しして議論できればと考えている。開催時期はまた改めて通知させていただく。引き続き、最も身近なインフラとして、上下水道事業の運営について、ご意見やご助言を賜れば幸いである。

本日は誠にありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

(鋤柄会長)

その他、委員の皆さんから何かあるか。

(委員各位)

意見なし

(鋤柄会長)

今、後日と局長から話があったが、次回はいつ頃を予定するのか。

(井田局長)

2月下旬から3月上旬辺りで設定させていただき、今日、現状をお示して状況をご理解いただいたので、どうすればこれをやっているのかということで、私達もある程度シミュレーション、方向性をお示して議論を深めていただきたいと思います。

その上で、状況によるが、料金の諮問をさせていただき、さらにその内容についてご議論いただいて、最終的には答申いただくということで考えている。

いきなり今日の話で諮問ということではなく、1回私達の説明をさせていただいてからと考えている。

(鋤柄会長)

2月下旬から3月上旬に次の審議会があるということで、できるだけ皆さん出席していただくようお願いしたい。

それでは、長時間にわたりありがとうございました。

以上で、令和7年度第1回飯田市上下水道事業運営審議회를閉会とさせていただく。